

非小細胞肺癌に対する解剖学的肺切除後の外科治療成績と  
マイオステアトローシス (筋肉の質の低下) の術前評価の関連性  
に関する臨床データの研究利用についてのごお願い

研究の概要・背景

(研究の概要)

切除可能な原発性非小細胞肺癌 (ステージ: I から III 期) に対し、解剖学的肺切除 (区域切除・肺葉切除・二葉切除・肺全摘) を施行された患者様を後方視的に集積し、CT 画像より得られた筋肉密度を基にマイオステアトローシス (筋肉の質の低下) の評価を行い、マイオステアトローシスが手術成績に与える影響 (術後合併症・長期予後) を検討し明らかにします。

(背景) 非小細胞肺癌 (ステージ: I-III 期) の最良の治療法は外科的切除ではありますが、一部の患者様の予後は不良であります。それにつきましては、ステージなどの腫瘍関連要因だけでなく、加齢、全身状態、併存症などの患者様自身の身体的状態によっても左右されます。

骨格筋内に脂肪組織が過剰に蓄積した状態として定義されるマイオステアトローシスは、筋肉の質の低下を表すために一般的に用いられており、サルコペニアとして知られる骨格筋量の減少や枯渇とは別個のものと考えられています。マイオステアトローシスは、加齢に伴う変化、栄養不足、慢性炎症、運動不足などと関連している可能性があり、身体障害、生活の質の低下、高い死亡率などの結果に影響を与えられていると言われております。最近の研究においては、マイオステアトローシスは、肺癌を含む悪性腫瘍患者の早期術後合併症や長期生存率の低下などと関連があることが報告されております。マイオステアトローシスの状況にある患者様を特定するために、CT 画像に基づいた骨格筋密度の測定は有効な評価方法とされております。

以上より、切除可能と判断される非小細胞肺癌患者様の CT 画像に基づいた術前の骨格筋密度の測定と外科治療成績の関連を調査することは意義深い研究と考えております。

**試料・情報の利用目的・方法（他機関への提供を含む）**

本研究は、解剖学的肺切除を施行された非小細胞肺癌（病理病期 I-III 期）患者様に対し、電子カルテ内の病歴、血液検査結果、画像診断情報、病理診断情報、治療後の転帰・予後などを利用致します。そのうち画像的マイオステアトーシス（筋肉密度の低下＝筋肉の質の低下）の存在が、術後合併症および長期成績に与える影響を分析することを目的としています。マイオステアトーシスの評価は CT 解析ソフトを用い評価致します。

本研究は、当院のみで行う研究であるため、他機関への情報提供はございませんし、得られたデータの取扱に関し、研究責任者は個人情報の保護に細心の注意を払い、情報の漏洩、紛失、転記、不正な転写などがないように管理致します。

**対象者・期間**

（対象者）2014年1月1日から2022年12月31日までに当院において、切除可能と判断された非小細胞肺癌患者様のうち、解剖学的肺切除（区域切除・肺葉切除・二葉切除・肺全摘）を施行された病理病期 I-III 期患者様を解析対象と致します。

（期間）当院倫理委員会承認日から2027年（令和9年）12月31日

**データ利用のお願いと申し出について**

これらの臨床データは通常の診療で記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究において臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡ください。研究不参加を申し出られたとしても、患者さんが不利益を受けることは一切ありません。

**【お問い合わせ先】**

長岡赤十字病院

担当医師：呼吸器外科 佐藤征二郎

〒940-2085 新潟県長岡市千秋 2-297-1

電話：0258-28-3600(代)、FAX：0258-28-9000(代)